

### 実践例③ 第6学年 特別の教科 道徳

#### 1 主題名 相手を理解する心【B－1 1「相互理解，寛容」】

(教材名「ぼくだって」小学校道徳「生きる力」日本文教出版6年)

#### 2 各学年の内容項目とその傾向（相互理解，寛容）

|         | 第1学年及び<br>第2学年 | 第3学年及び<br>第4学年                                                          | 第5学年及び第6学年                                                                                                   | 中学校                                                                                                                 |
|---------|----------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内容項目    |                | 自分の考えや意見を相手に伝えるとき、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。                           | 自分の考えや意見を相手に伝えるとき、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。                                                            | 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。                              |
| 指導にあたって |                | 相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付くようにする。 | 広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるようにする。 | 個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意志に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること、そして互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなものの見方や考え方があることを理解できるようにする。 |

#### 3 本校の研究テーマとの関連 ※ 下線部は、本主題の重点

(1) 研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気付き、互いに認め励まし高め合う子どもの育成～自己肯定感を高める取組を通して～」

(2) 研究の視点

| 視点イ②交流活動の工夫                                                                                          | 視点ア③振り返り                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 多面的・多角的に考えることができるように、自分の意見と友達の意見を比べさせる。<br>自分事として課題を捉え、多面的・多角的に考えさせるために、日常生活で起こりそうな問題場面について学び合いをさせる。 | 今後の実践につなげるために、本時の学習を振り返って考えたことやこれから実践してみたいこと、大切にしたい気持ちなどを「振り返りカード」にまとめさせる。多様な考えに触れさせるために、発表の時間を設けて数人に発表させる。 |

#### 4 実 際

(1) 目 標

相手の過ちなどに対して、自分にも同様の経験があることに気付き、謙虚な心、広い心で受け止め、相手を尊重した上で自分の思いを伝えようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 自己肯定感を高める「他者のよさに気付き、互いに認める」手立て

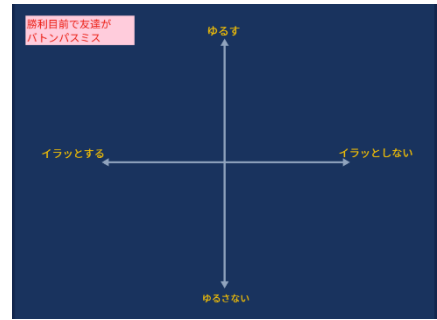
| 視点イ②交流活動の工夫                                                                                                                                                                                                                                   | 視点ア③振り返り                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p>② 実際の事例を提示し、自分の立ち位置を視覚的に捉えることができるように、四象限表に自分の立ち位置を表現させる。</p> <p>② 自分の考えをまとめることができた児童には、多面的・多角的に考えることができるように、席を離れ、友達の意見と比べさせる。その際、同じ考えの時には☆、自分の考えと違う場合には◎を付けさせる。</p> <p>② 自分事として捉えさせるために、導入で立ち位置を明らかにした事例から、どのような言動を取りたいかを理由も付けて話し合わせる。</p> | <p>③ 考えを共有させ、実践への意欲を高めさせるために本時を振り返り、めあてに対する自分の考えやこれから大切にしたい気持ちなどを書かせる。</p> |

### (3) 本時の流れ

#### 1 道徳的価値に対しての自分の立ち位置を確認し、本時のめあてをつかむ。

T：運動会のリレーで、友達のバトンパスミスで負けてしまったらどうしますか。  
C：負けて悔しいので、友達を責めるかもしれません。  
C：みんな頑張って負けたので、友達を許します。  
T：今日は、そのようなときにどのような考えをもって行動したらよいかを考えましょう。

友達がミスしたときに、どのような考えをもって行動すればよいだろうか。



#### 2 主人公の心の動きを考え、自分たちの生活に合った問題場面についてグループで学び合う。

##### (1) 主人公の心の動きを考える。

T：「ぼく」は、どのような思いでヒサシの家に行ったのだろう。  
C：自分も同じ失敗をするときがある。  
C：ヒサシも頑張っていたのに、気持ちをわかってあげられなかった。  
T：なぜ、ヒサシに謝らなくてはいけないのだろう。  
C：ヒサシの気持ちをわかってあげられなかったから。

##### (2) 自分たちの生活にあった問題場面について学び合う。

C：運動会のリレーで、友達のバトンパスミスで負けてしまったらどのような行動を取ったらいいかな。  
C：友達も頑張ったので、責めないようにしたい。  
C：誰にでも失敗はあるので、「頑張ったね」と励ましたい。

##### (3) 全体場で学び合う。

T：どのような考えで行動しようと思っている人が多いですか。  
C：友達もミスしたくてしたわけではないので、責めない。  
C：誰にでも失敗はあると理解して励ます。  
C：相手も頑張っていると理解する。



#### 3 本時の学習をまとめ、振り返りをする。

##### (1) 本時の学習をまとめる。

友達がミスしたときは、友達もがんばっていると理解して行動する。

##### (2) 本時の振り返りをする。

T：今日の振り返りをしましょう。  
C：これから、相手のミスでイライラしてしまったときは、友達も失敗したくてしたのではないという気持ちを理解して行動したいです。  
C：相手も頑張っていると理解することが大切だということに気付きました。

T：今日の学習を振り返って、最初の立ち位置に変化があった人は、ネームプレートを動かしてみましょう。

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 気づき      | 【教材名】ぼくだって        |
| なるほど     | やっぱりミスした側の気持ちになる  |
| もっと・これから | もっとやさしくできるかなと思った。 |

|          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 気づき      | 【教材名】ぼくだって...                        |
| なるほど     | 友達がミスしたときは「相手もがんばっている」と理解するということをもっと |
| もっと・これから | 行なうということに気付いた。                       |

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 気づき      | 【教材名】ぼくだって        |
| なるほど     | これから、友達もがんばりにちょう  |
| もっと・これから | せんて、しっばいした。おめでとう。 |

### 5 考 察

- 導入で、事例を基にした心の立ち位置を四象限表で明らかにさせることによって、自分事として捉えさせて学習に臨むことができた。
- スタンディングミーティングを取り入れることによって、子どもたちが積極的にお互いの考えを交流できたので、多面的・多角的に考える手立てになった。
- 実際の生活にあった問題場面で学び合いをさせる際、心の葛藤を話し合ったり、具体的な言動を話し合わせたりするなど、実践意欲を高められるような交流活動の工夫が必要である。